

News スクランブル 2015

公立昭和病院が解りやすい 病気と治療の本を発刊



公立昭和病院上西院長



執筆を担当したのは各診療部門の専門医。看護、薬剤の部からの執筆もあり、

「目的です」と話します。病気に対処し、本書をプラス思考で活用してもらおうのが

『公立昭和病院の最新の医療』
A4判 144頁 ¥1500(＋税)
発行／バリユーメディアカル

「公立昭和病院の最新の医療」は、市民に役立つ病気の活用書が、公立昭和病院から刊行されました。同病院の上西紀夫院長は「病気や医療に関して情報が溢れています。治療を受ける場合に病気や治療について十分な説明を受け、理解、納得した上で病気に対処し、本書をプラス思考で活用してもらおうのが目的です」と話します。執筆を担当したのは各診療部門の専門医。看護、薬剤の部からの執筆もあり、

小平ふるさと村で昭和30年代を 再現した結婚式



昭和30年代まで、小平で一般的に行われていた自宅での結婚式が、小平ふるさと村で11月3日、爽やかな秋晴れのもとに再現されました。

公募のカップル1組の本物の結婚式で、花嫁が家に入る前の「火またぎ」の儀から始まり、相伴当といわれる司会は、落語家の古今亭志ん八さんが務めました。主賓に小平小平市長を迎え、新郎、新婦双方の仲人が挨拶、親族紹介。親族固めの盃、そして雄蝶、雌蝶と呼

ばれる男の子と女の子による三三九度の盃。こうして花嫁方の仲人が「嫁をよろしく」と花婿方に引き渡して、めでたく式が終わり宴席へ。謡曲「高砂」が朗詠され、鈴木囃子の獅子舞もお祝いの舞を披露。半世紀余りも前の簡素だけれど、人々の温かい祝いの気持ちが伝わる昭和の結婚式でした。

丁度、見学に来ていた小平国際交流協会の小平ツアー参加の留学生家族は「アメイジング」「ビューティフル」と感激の面持ち。自国とはまるで違うといい、「伝統の結婚式を楽しんでいました。」

関東地区では初めてとなる病院が、市民に役立つ病気の活用書が、公立昭和病院から刊行されました。同病院の上西紀夫院長は「病気や医療に関して情報が溢れています。治療を受ける場合に病気や治療について十分な説明を受け、理解、納得した上で病気に対処し、本書をプラス思考で活用してもらおうのが目的です」と話します。

萩山駅北口で見つけた 女性オーナーが夢を紡ぐ3つの店

西武多摩湖線・拝島線の萩山駅北口はスーパーがある南口に反して、小さな店と住宅が混在した目立たない場所。けれども北口徒歩1分の所にはハンドメイド雑貨の「くらりす」、1軒おいてプリザーブドフラワーの「二華房(いつかぼう)」、同じ通りの角にラッピングと雑貨の「アジト」が並び、いずれも女性オーナーが好きなお店で夢を実現した、ステキな店です。3人のオーナーたちはお互いに助け合い、萩山駅北口を盛り上げようと頑張っています。共通の願いは「通りにカフェがあればなあ」。クリスマスプレゼントを探しに出かけてみませんか。

ハンドメイドの温かさが伝わる店

多摩地域の手作り作家の多彩な作品を紹介したいと3年前に開店したくらりす。オーナーの小金井由美子さん自身もガラスクラフト作家で、ガラスで作る小物やアクセサリーの教室を開いています。他にも、かぎ針とビーズ、羊毛フェルト、バステル和アート、タティングレースなどの少人数の教室が開かれ、手作りを楽しむ人々が集っています。

上・オーナーの小金井由美子さん
下・クリスマスツリーやリースのガラスクラフト



販売商品は33人の作家たちのさまざまな作品。服やバッグから素材いろいろのアクセサリー、動物のあみぐるみ、和小物まで。その中にはテレビで紹介され、一躍名が知れた小野川直樹さんによる繊細な折鶴のピアスも。オーナーの色彩やかなガラスのクリスマスツリーやリースも存在を放っています。気軽に個展やグループ展ができるよう、ギャラリースペースも。店内だけに限らず、デパート催事やギャラリーへの出展、ルネこだいらでの「暮らしを楽しむ手しごと市」を主催。いずれもクオリティの高さで人気を呼んでいます。

☎042(396)2588
営業時間 13時~19時
定休日 日・月

「好き」を仕事に変えるお花の学校

一華房は今年3月にオープン。子育てと仕事に頑張ってアラフォーとなり、その後の生き方を模索中にプリザーブドフラワーに出会った喜名慶子さんが、講師資格を取得後に教室と制作、販売を手がけるアトリエとギャラリーを開いたもの。「プリザーブドフラワー」とは生花を特殊な技術で加工し、長い期間瑞々しさを楽しめる花。それらを使ってアレンジし、贈り物やインテリア、ブライ



リースのレッスンや販売も

ダルブーケの作品にしています。体験レッスン、資格コース、ワンデーコースなどがあり、働いている人のために夜間、週末のレッスンも。予算、用途に合わせた制作販売ができるので贈り物に最適。自分の体験から、仕事につながるサポートをしたいと喜名さん。

☎042(394)8065
営業時間 10時30分~19時30分
定休日 日・月

ギフトラッピングと暮らしの雑貨

アジトは昨年6月オープン。増田ちえみさんが雑貨店を開くという長年の夢を実現させました。ラッピング協会認定講師の資格を持ち、週2回(月・木)はマンツーマンのラッピング教室日、あとの3日(火・木・土)がシヨップ営業日です。

店内は色とりどりのラッピング用包装紙とリボンがいっぱい。センスあるキッチン雑貨や小物、逸品の「銘木椀」なども。持ち込みの有料ラッピングもやっていますが、こちらは男性客が8割を占めるとか。「ラッピングが可愛いと、もう側のテンションが3倍に」という通り、増田さんの手になる包装

は芸術的。開けるのがもったいなくありませんよ。

☎042(397)3300
営業時間 10時~16時
定休日 日・水



「いらっしゃいませ」と増田さん
左・素敵なラッピング



左から後藤さん、代表・渡辺さん、野口さん



不幸な猫を増やさないために 「西東京 飼い主のいない猫を救う会」

★会員募集中
★子猫の預かりボランティア募集中
次の譲渡会 12月6日(日) 9時半～12時
エコプラザ西東京
(問) 042(438)4042環境保全課



上・田無庁舎での譲渡会
右・捕獲器に入って神妙な顔
左・飼い主を待つ子猫



一時保護のため捕獲器をセッット中

オスは術後すぐに元の場所へ戻せませんが、メスは1日入院させ、様子をみて戻します。耳先をほんの少しカット

「エサを入れた捕獲器で捕まえるのですが、夜行うことが多いので、近隣住民に不審がられることもあって、なるべくチラシを入れたり、説明したりしています」と野口さん。

会員は自分が住む地域の野良猫を増やさないために、一時保護し、動物病院で不妊、去勢の手術をさせます。

「ふん尿の悪臭」などのクレームが市役所に寄せられていました。市の呼びかけもあり、平成21年、それまで個々に救護活動をしていた人々が「西東京飼い主のいない猫を救う会」を立ち上げました。現在会員は30名。代表の渡辺行江さん、後藤貞子さん、野口みどりさんに話を伺いました。主な活動は *

愛らしい猫たちの動画が話題になる一方で、街では捨て猫が増え、そのまま野良猫になってしまうことが多く、虐待事件もあとをたちません。猫は1年に3回も出産でき、1回で4〜6匹産みます。放っておくと、猫算(つ)的に増えていくのです。

「猫は好きじゃなかった」そう。命あるものに対して、そうせざるを得ない心の持ち主なのです。

欧米では犬猫を保護するシェルターハウスがあり、多くの人びとの寄付で運営され、日本のように個人が負担したり、犬猫が年間約14万頭も殺処分される国はないのです。引き取り手のいない猫を渡辺さんは8匹、後藤さんは12匹も世話しています。二人とも以前は「猫は好きじゃなかった」そう。命あるものに対して、そうせざるを得ない心の持ち主なのです。

西東京市は飼い主のいない猫の不妊、去勢手術に対して、年間90万円の助成をしています。が同会にとっては充分とはいえない額。年間に会員だけでも100匹以上の猫に手術を受けさせています。病気の猫の治療費など、会員が自腹を切ることも多い。しかしながら北多摩5市で助成金制度があるのは西東京市のみ。

して手術した猫であることを識別します。けれども子猫がいる場合は一時預かりのボランティアに保護してもらい、月1回(4月〜12月) 田無庁舎とエコプラザ西東京で交互に開催されるりさいくる市やイベントで譲渡会を実施。インターネット上でも里親探しをやっています。